

京都教育大学FDニュース

No.71

2014年6月10日

京都教育大学FD委員会

2013年度後期の学部授業アンケート集計結果について

教育学部授業アンケート（2013年度後期）の実施にご協力いただき、ありがとうございました。調査の概要と結果をご報告いたします。

1. 調査の概要

実施期間：2014年1月21日（火）～2月3日（月）

対象科目数：364

実施科目数：318（調査実施率 87.4%）

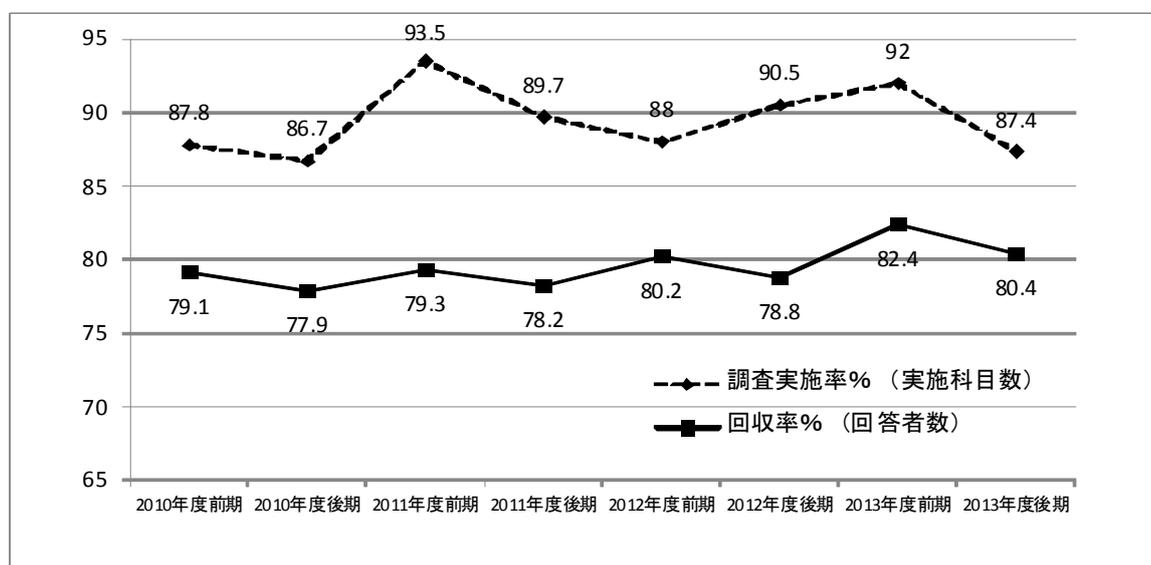
実施科目の履修者数：11,327名

回答者数：9,105名（回収率 80.4%）

内訳：一回生 3,682名（40.4%）、二回生 3,083名（33.9%）、三回生 1,465名（16.1%）、
四回生 327名（3.6%）、五回生以上 92名（1.0%）、回答したくない 318名（3.5%）、
無効・無回答 138名（1.5%）

過去4年間の実施率と回収率を下図に示します。実施率は9割前後、回収率は8割前後を推移しています。ただ、今回の実施率が前期の授業アンケートと比べて4.6%減少（前年度後期と比べると3.1%の減少）したのが目につきます。今後の推移に注意すると同時に、各教員が授業アンケートを実施しやすい状況にしてゆくための工夫も必要と思われます。

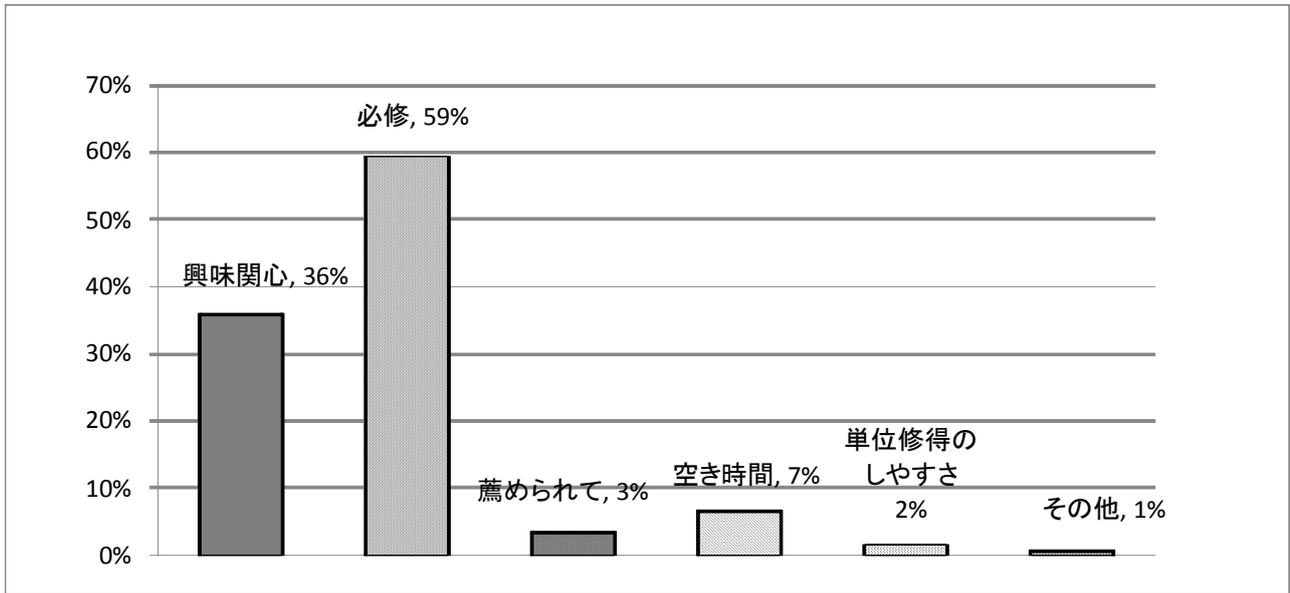
近年の調査実施率と回収率の変遷



2. 結果の概要

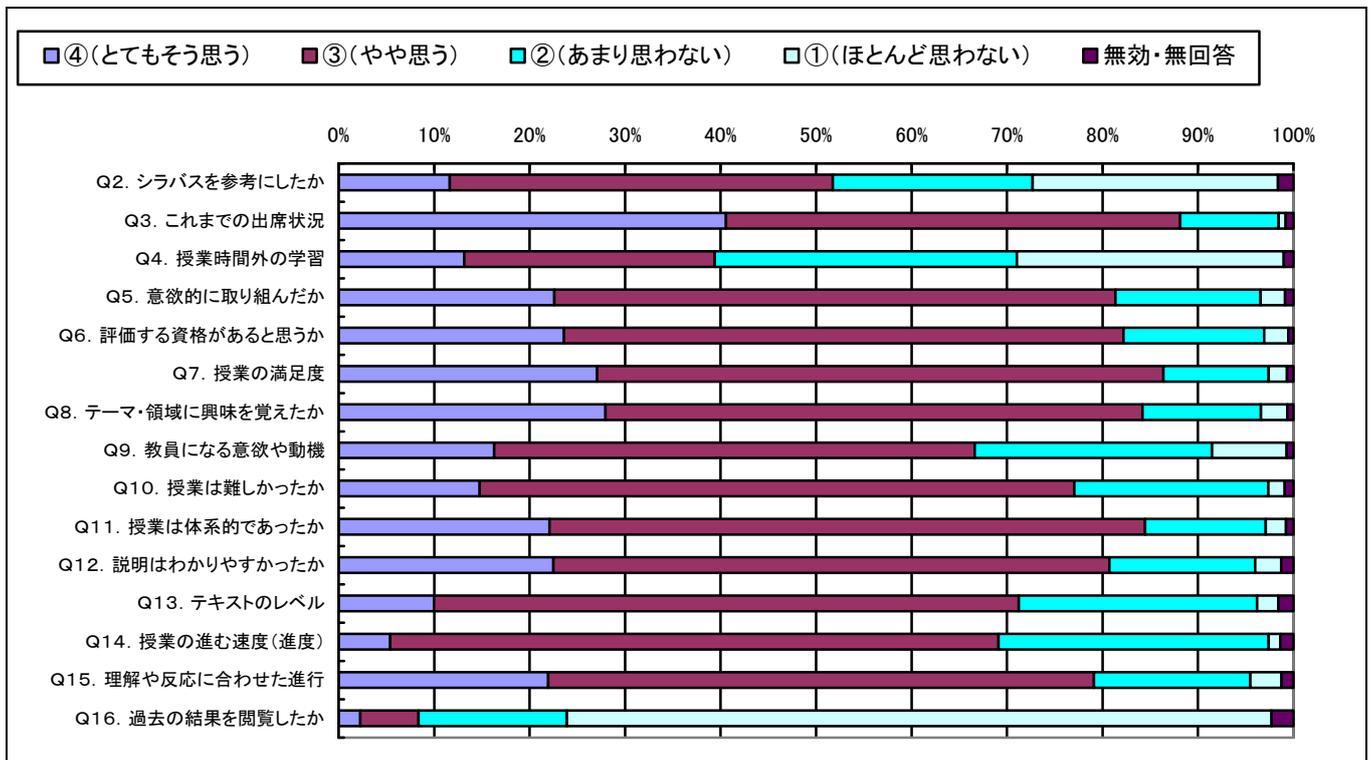
(1) 項目別の回答分布一覧

■ Q 1 受講動機 (複数選択可)



受講動機 Q1.は、例年と同様に、「必修だから」が最も多く 59%となり、「興味・関心」が 36%となっています。教員養成を目的としたカリキュラムであるため必修科目や選択必修科目が多く、キャップ制を導入して履修単位数に上限を設けている本学らしい結果といえるでしょう。他の項目についても、昨年と同様で、どれも 1%程の違いに収まっています。

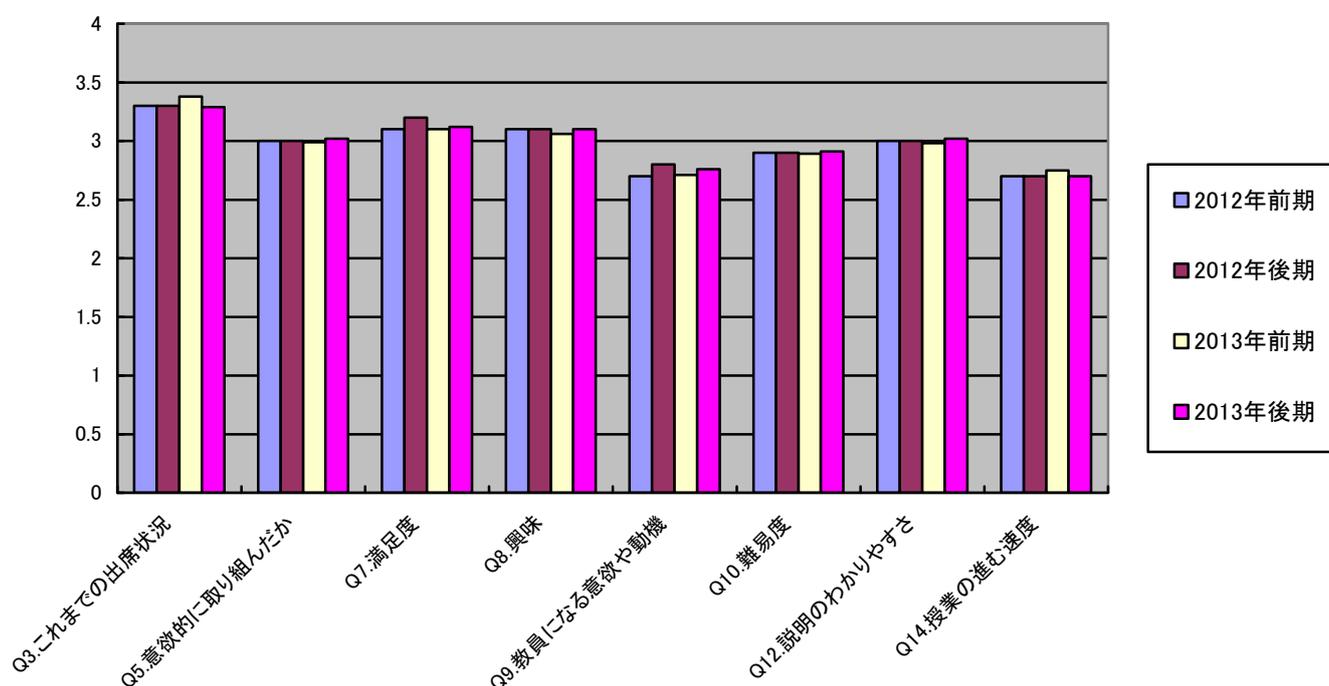
■ Q 2 ~ Q 1 6 全体回答の帯グラフ



出席状況 Q3 では、例年と同様に、9 割弱の受講生が「0~2 回の欠席」と答えています。必修科目

が多いこともあり、出席率は良いようです。授業時間外の学習 Q4 については、「1 時間未満」「ほとんどしない」という回答者の割合が 6 割となっています。この数値は 2011 年度前期には 65%に達していたものが、半期毎に約 2%ずつ減少し、2012 年度後期に 59%になった後、2013 年度前期 62%、今回の後期 60%と変化してきています。授業時間外学習の時間を増やそうという各先生方の工夫や努力は長い目で見る必要があると思われます。棒グラフで興味深いことは、Q5 で約 8 割の受講生が「とても意欲的に取り組んだ」「やや意欲的に取り組んだ」と回答し、Q6 でも約 8 割の受講生が公正に評価する資格が「とてもあると思う」「ややあると思う」と答え、Q7 で 9 割弱の受講生が、授業を受講して「とても満足した」「やや満足した」と答えている一方で、Q10 では、8 割弱の受講生が「とても難しかった」「やや難しかった」と回答し、Q13 で約 7 割の受講生が「テキストや配布資料などがとても難しかった」「やや難しかった」と回答して、Q14 で 7 割弱の受講生が授業の進度が「とてもはやかった」「ややはやかった」と回答していることです。これは今回だけのことではなく、例年の傾向です。前者（Q5～Q7）の回答と後者（Q10,Q13,Q14）の回答とは少し矛盾があるように感じられるかも知れませんが、学生は感じたまま率直に回答しているのではないのでしょうか。初めて学ぶ内容を学生が難しいと感じるのは当然ですが、それに対して授業担当者が、Q12 の説明のわかりやすさの回答（約 8 割が「とてもわかりやすかった」「ややわかりやすかった」と回答）にあるように授業内容の難しい所を補い、Q15 の理解や反応に合わせた進行（やはり約 8 割が「とても思う」「やや思う」と回答）という形で授業を進めている結果と思われます。アンケート結果の閲覧 Q16 では、約 7 割の受講生が全く閲覧をしていないという結果でした。これは昨年度より 5%程増加しています。

(2) 過年度と同一項目の平均値の比較



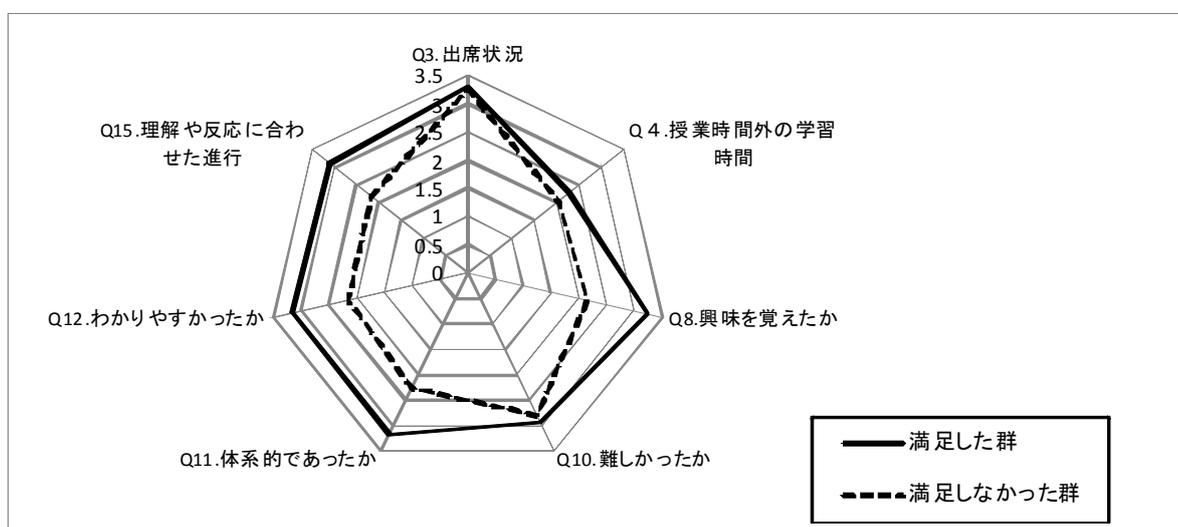
以前から継続して実施している質問項目について、平均値を比較したものが上記の棒グラフです。年によって、値はそれほど大きくは変化していないことが分かります。「Q9 この授業を受講して教員になる意欲や動機が高まりましたか」について、他の項目よりも評価が低いことが少し気になります。

(3) 「満足した群」と「満足しなかった群」の違い

「授業に満足した群」と「満足しなかった群」の比較はほぼ例年通りの結果となりました。前年度

後期の結果から変化した点として、「満足しなかった群」の出席状況が良くなり「満足した群」との差が狭まったこと、授業時間外の学習時間について、どちらの群も短くなったのですが、「満足しなかった群」の方の減少が大きくて差が広がったこと、興味を覚えたかについて「満足しなかった群」が少し減少し現状維持の「満足した群」との差が広がったことの三点が挙げられます。

満足度は出席状況や授業の難易度とはほとんど相関がないことがわかります。これまで満足度は授業時間外の学習時間とはあまり関係がなかったのですが、学習時間の減少が理解度の減少、そして満足度の減少と負のスパイラルを生む恐れがあるため、今後の経過に注意を払う必要があります。一方、満足度が「授業が理解や反応に合わせた進行」をしているとか、「わかりやすかったか」とか、「体系的であったか」とか、「授業に興味を覚えたか」という質問項目と大きく関係をしていることは変わりありません。この結果は質問項目を新しくした2011年度前期から同様の傾向が続いています。学生にとって授業が難しく思えても、授業担当者が受講者の反応を受け止め、わかりやすく説明しようとしていると感じられるようであれば、自分が授業に参加しているという気持ちが持て、満足度が高くなるのではないのでしょうか。



以上の結果を参考に、今後の授業改善に役立てていただければ幸いです。

+++++

FD委員会では、今年度も前後期2回の授業アンケートの実施のほか、研修会の実施を予定しています。今後ともご協力下さいますようお願いいたします。

2014年度前期の学部授業アンケート実施のお知らせ

実施期間：2014年7月9日（水）～7月28日（月）

対象科目：受講登録者数6名以上の（集中講義、不特定科目を除く）全授業

問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：安東（委員長）、藪根（副委員長）、巻本、二枝、大竹

事務担当：高松、相原